

避難道と看板

海岸沿いに2本ある。細く急な坂であるため、車での移動や徒歩での移動は難しいように思われることから、緊急時に利用できるとは思えない。また、「海拔0m」と示された看板が町のあちこちにあったり、ハザードマップが壁に貼ったりと、町内で津波に警戒しているようだった。



漁港

都農漁港からは日帰り船が約20隻、マグロ船が4隻漁に出ている。都農の海では午前2時から作業が始められておりハマス、タイ、カサゴ、アジが獲れ、そこで入札が行われている。また、延岡市や鹿児島で獲れた魚を宮崎市場で仕入れ、九州から関東に至るまで各地に出荷している。ネットでお注文も受け付けており、

注文数はネットのほうが3倍ほど多い。



龍雲寺

昭和18年開山の日蓮宗派のお寺。守護の雲人龍神様を祭るお寺として龍雲寺と名付けられた。厄除け祖師として日蓮大聖人が、子供の守り神として都農鬼子母神が、裕福の神として波之利大黒天が祀られている。大黒天祭や水行での祈禱会など1年を通して様々な行事を行っていて年中誰でも参加することが出来る。SNSで情報発信しているいろいろな供養や祈祷、お祓いなども受けている。



一政商店（駄菓子屋）

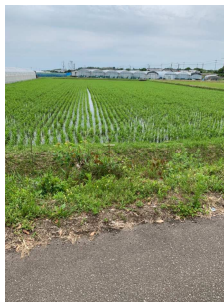
年配の女性が営んでいる駄菓子屋さん。駄菓子のほかに落花生も販売している。買いに来る子供の数は減っているが、最近はお金をたくさん持ってまとめて買っていきの子が多いそう。。店主の方はとても良い人で店内も懐かしい雰囲気のお店。しかし、海が目の前にあるため、津波が起きた際は巻き込まれる危険性が高い。



田畑

いため、農業従事者の高齢化が問題になっている。

稲・トウモロコシ・ミニトマト・ブドウが栽培されている。田畑の大部分に人の手が入っていたが、雑草が生えていて何も作っていない土地もあり耕作放棄地帯が目立った。また、町を一度離れた若者が戻ってくることは少ない。



隠れスポット

近くに「Tsuno Local Point」と書かれた看板が立ててあった。都農の海を見渡せる場所にベンチとテーブルが設置しており、砂浜はないが静かで落ち着ける。プライベートビーチといっても過言ではなく、リラックススポットといえるだろう。



空き家

空き家が非常に多い。道が多く急であるため、リフォームや解体作業のトラックが通れない。そのため、移住してくる人もほとんどおらず、管理する人がいないことも多々あるため放置される家が増えている。長年放置されて草木に覆われている空き家もある。



福祉バス

ている。

高齢者の外出支援や自動の通学補助を目的としたバスであり、14人乗りが3台運行している。だれでも200円（子供100円）で乗ることが出来る。車を持っていない高齢者の通院などのサポートをするなど活躍し



都農の実習を通して実際に地域を訪れることは、事前に調べていたことでは得られない情報の聴き取りができ、地域性を理解する上で欠かせないものだった。途中で避難道を見つけたが実際に話を聞いてみると坂があり避難しにくいものも多かった。また、人が少なく年齢層が高い印象があったため避難の難しさがあるということも感じた。また人が少ないと感じたが実際の話の中でコミュニティが希薄化してきていると話していた。それにより単身世帯・孤独死の問題・空き家の問題が出てきていることが分かった。ネットで調べるだけでなく実際に話を聞いてみることはとても大事だと感じた。今回の実習を活かして今後の地域の理解や活性化につなげていきたい。